

6002 (第 60 期 第 2 回) 男女共同参画推進委員会会議議事録

日 時 : 2004 年 10 月 2 日 (土) 10 : 00-13 : 15 (予定 10:00-12:00)

場 所 : 日本物理学会内会議室 (港区新橋 5-34-3 栄進開発ビル 5F)

出席者 : 鳥養映子、安居院あかね、井上順一郎、延與秀人、平野琢也、肥山詠美子

[職員 高島まり子]

欠席委員 : 板倉明子、潮田資勝、笹尾真実子、鈴木厚人、田島節子、福山秀敏、村尾美緒

議長 : 鳥養委員長

資料 1: 10/7 シンポジウム詳細プログラム

資料 2: 学協会アンケート報告

資料 3: 同上英語版ドラフト(回覧)

資料 4: 前回欠席者に前回資料 (2003 年活動報告, 物理学会アンケート女性研究者の視点からの報告書, 物理学会からの提言)

その他の資料 : 第 60 期男女共同参画推進委員会名簿、日本物理学会理事等の旅費等に関する規定、11/24 学術会議主催公開講演会プログラム、11/9 公開講座「女性とリーダーシップ」チラシ案。

議題 :

0. 本委員会の性質, 課題, 運営方針について

- 1) 新委員、ネットコメンテーターの自己紹介及び委員長から欠席委員の紹介があった。
- 2) 委員長から新委員、ネットコメンテーターの役割についての説明があった。ネットコメンテーターからは委員だけでは気付かない意見を集め、委員会に反映させたい。委員の敬称は社会的肩書きによらず「さん」を使いたい。
- 3) 委員長から、委員会開催は隔月にしてネット会議を充実させたい、ネット会議を活性化するための方法についてアイデアを出していただきたいとの発言があった。
- 4) 委員長から資料 4 に基づき、これまで取り組んできた課題と今後取り組むべき課題についての説明があった。
- 5) 副委員長として延與秀人委員を選任した。

I. 学協会連絡会 2 周年シンポジウム準備状況の確認

1) アンケート報告書英訳 (資料 2) の進捗状況と問題点の整理

- (1) もう少し手を加え、仮訳としてプレスと各学協会に渡す。印刷は平野。印刷経費として、トナーを物理学会から支給する。
- (2) 印刷製本費用は、文科省と交渉中。
- (3) 英題について種々の意見交換を行った。最終判断は、委員長と翻訳者に一任した。

2) 当日の分担について

(1) 分科会参加分担:アンケート分析→平野、ポスドク問題→井上及び安居院、育児支援→板倉

3) 連絡会提言について

シンポジウムで提言採択(育児支援)を予定している。「ポスドクの研究環境」に関してもシンポジウムで提言を採択すべく連絡会運営委員会で検討してきたが、9月17日の運営委員会において、他学会から大幅な修正案が出されたため、継続審議とし、10月7日のシンポジウムでの採択へ向けた提案は見送ることにした。

4) その他

(1) 特別講演 Helen Quinn さんが家族の急病のため来日不能。坂東前委員長の代読、または米物理学会代理の代読とし、プログラム変更はしないとの説明があった。

(2) (外国)プレス対応。アンケート報告書英訳版を配布する。

II. 今後の活動方針 (短期)

1) 物理学会 2005 年春の年次大会シンポジウム

(1) 今回もシンポジウムを催したい。

1 担当→肥山、井上 (企画案、シンポジウム申込締切に注意)

2 内容案: attracting girls into physics, 法人化の影響(雇用、予算など)、科研費申請枠拡大のその後、物理学会への提言

(イ)その他。今後の学会の保育所のあり方。労働安全管理者の意見、法人化の影響、事例から見た個別の考え方など資料を作ったのち議論。

2) 国際的連携

(1) APPC (10/25-30) 派遣→鳥養が Round Table Discussion "Women in Physics"において、本委員会と学協会連絡会の活動報告を行うこととなった。

(2) IUPAP WG "Women in Physics" Conference in Rio de Janeiro 5/15-17,2005

若い人も含め4-5人派遣したい。予算獲得のために、科研費、多国間協力、その他民間海外派遣研究助成に委員会として積極的に応募していく。

科研費の検討→延興委員。全委員に、応募の機会を逃さないように気をつけて頂きたいとの要請が委員長からあった。会議日程は調べて後報。

3) 中・長期計画

(1) 委員長より、次回(12月4日)委員会において、今期に取り組むべき課題の優先順位を議論するので、資料4を読んでおいて頂きたいとの要請があった。

(2) 提言について

委員長から、パリ会議の決議(resolution)を受けた提言の議論を行ってきたこと、これまでに育児支援と科研費研究助成の提言をそれぞれ大学及び研究機関と学振、政府機関に送ったこと、今後の課題として以下があがっていること、優先順位を議論しながら検討していきたいとの説明があった。

- 女性の常勤研究者比率の増加，人事評価に対する提案（大学・研究機関へ），
- 女性研究者研究支援制度，女性研究者を励ます組織，リーダー養成，小中高女子生徒への働きかけ（物理学会へ），

4) 講演会「女性とリーダーシップ」(11/9)主催について

講師：赤松良子元文部大臣．坂東前委員長からの提案．物理学会主催．意見交換の後，条件付きで主催，または日本化学会男女共同参画推進委員会との共同主催を承認した。

条件：会費が会場費、喫茶費など参加者に還元されるなら、主催しても良い。講師への謝金なら会費を取るべきでない。

5) 日本学術会議公開講演会(11/24)出席について

委員長から、共催しているのでできるだけ参加していただきたいとの要請があった。

III. 世界物理年に向けた準備

委員長から、世界物理年に合わせて、世界をリードする女性科学者を招聘して若手研究者や少女と交流を持つシンポジウムの企画案が坂東前委員長から物理学会に出されていること、この企画の支援について文科省に打診していることなどの説明があった。次回審議。

IV. その他

1) 科研費

男女共同参画関係の活動資金を獲得したい(IUPAPの参加費など)。担当→延與

2) ネット会議の方法

ネット会議を活性化するための方法検討。担当→安居院

以上